

一般社団法人日本循環器看護学会
平成 29 年度 第 2 回理事会議事録

- 1 日 時 平成 30 年 6 月 3 日(日)13 時 00 分から 16 時 00 分まで
- 2 場 所 AP 東京八重洲通り 12 階 D+E ルーム
東京都中央区京橋 1 丁目 10 番 7 号 KPP 八重洲ビル
- 3 出席者 吉田俊子(理事長)
三浦稚郁子(副理事長)
池亀俊美、伊藤文代、宇都宮明美、岡田彩子、落合亮太、角口亜希子、小泉雅子、
齊藤奈緒、瀬戸奈津子、竹原 歩、田村綾子、仲村直子、簗持知恵子、三浦英恵
(以上理事)
以上理事 16 名中 16 名出席(定足数 8 名)
眞茅みゆき、眞嶋朋子(以上監事)

4 会議の目的事項並びに議事の経過の要領及び結果

以上のとおり定款第 28 条の定める定足数を満たす理事の出席があり、本理事会が成立したので、定刻、吉田理事長は議長席に着き、開会を宣し、議事に入った。

第 1 号議案 平成 29 年度第 1 回理事会議事録(案)確認の件

吉田理事長より、平成 29 年度第 1 回理事会議事録(案)が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

第 2 号議案 新規入会・退会者の承認の件

池亀総務委員長より、新規入会者・退会者の一覧が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

入会希望者が 150 名、退会希望者が 59 名であった。

第 3 号議案 平成 30 年度事業計画(案)の件

吉田理事長より、平成 30 年度事業計画(案)が示され、各委員会委員長より平成 30 年度事業計画について説明がなされた後、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

1) 学術委員会

岡田学術委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 日本の循環器看護領域の学術的発展の推進のあり方の検討を目的として、海外の循環器看護に関連するの会との交流を図る。理事会承認を得た場合は、The Global Cardiovascular Nurse Leadership Forum に加盟し、加盟団体と交流を図る
- (2) 循環器看護領域の学術的基盤の構築と発展に向けた、用語、定義の検討をする。
- (3) 教育セミナーを開催する(3 回/年)(※第 34, 35, 36 回 教育セミナー)。様々なレベルの循環器看護の実践家、教育者、研究者に対応できるセミナー企画・運営を行う。

議場より、定義の案作成について進捗状況の質問がなされ、現在作成中であることが報告された。

2) 学会誌編集委員会

篠持学会誌編集委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 学会誌年 2 回(第 14 巻第 1 号,第 14 巻第 2 号)の発行、第 15 巻第 1 号の発刊準備
- (2) 電子投稿システム運用の評価・改善
- (3) 電子投稿システムの導入に伴う編集委員会マニュアル、査読ガイドライン等の見直し
- (4) 次期専任査読委員の検討
- (5) 投稿原稿の活性化へ向けての対策の実施。第 15 回学術集会でのセミナー・投稿相談会の開催。

3) 政策・診療報酬委員会

宇都宮政策・診療報酬委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 循環器看護分野の政策的課題の検討
- (2) 医療保険に関する外部機関への会議等の出席、および渉外
- (3) 心不全患者の再入院予防介入プログラム研究の実施(看保連助成金)
- (4) 心不全緩和ケアマニュアルの作成

宇都宮政策・診療報酬委員長より、心不全緩和ケアマニュアルの作成にあたり、ワーキンググループを組織することが提案され、議場に承認が求められたところ、異議なく承認された。

また、議場より、日本心不全学会にて心不全の緩和ケアに関するプロジェクトチームが立ち上がったため、本会のワーキンググループメンバーと協働していくことについて提案がなされ、次年度の検討事項とした。

4) 広報委員会

落合広報委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 学会ホームページ 会員専用コンテンツの充実
- (2) 会員の研究・臨床実践活動に関する広報活動推進
- (3) ニュースレター第 12・13 号の発行
- (4) メーリングリストの運用開始

議場より、診療報酬の取り入れ方について、メーリングリスト等で情報発信することが提案された。

5) 倫理委員会

瀬戸倫理委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 申請のあった研究に対して、規定に基づき倫理審査を行う
- (2) 個人情報保護に関する問題が生じた場合に対応を行う
- (3) 本学会の研究に関する「利益相反指針」を作成する
- (4) 一般社団法人日本循環器看護学会倫理綱領に関する問題が生じた場合に対応を行う

6) 国内交流委員会

仲村国内交流委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 本法人の国内の循環器看護関連法人・学会・研究会などを中心とした諸団体との交流をはかる。本学会における他学会とのジョイントシンポジウムの開催の流れ、学術集会の企画委員と国内交流員の役割の分担などをまとめる。
- (2) 上記 1 にともなう、本学会の窓口となる。

7) 選挙管理委員会

伊藤選挙管理委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 法人第3期における選挙の実施
- (2) 30年定時社員総会にて新理事の承認を得る
- (3) 選挙後の後始末及び反省点の整理

また、伊藤選挙管理委員長より、2015年から2期連続務めた理事について、三浦(稚)理事、池亀理事、伊藤理事、宇都宮理事、岡田理事、田村理事、齊藤理事であることが報告された。2期連続で務めた理事は投票用紙の投票欄に斜線を引くこととする。

8)総務委員会

池亀総務委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 会員管理のシステム化
- (2) 各委員会の活動支援、調整
- (3) 理事会、社員総会、会員総会の運営補助
- (4) 会員獲得に関する事業

以上の事業計画については次回理事会にて承認することとする。

第4号議案 看保連 会費の改定について

三浦(英)理事より、看保連より、体制強化を目的として看保連で正職員を雇用するため、会費を値上げすることの提案があったことが説明された。現在会費はどの団体も一律7万円であるが、今後は学会の会員数に応じて傾斜が設けられることとなり(A群1~999名:7万円、B群1,000~1,999名:15万円、C群2,000~2,999名:20万円、D群3,000~3,999名:25万円、E群4,000名以上:30万円)、会員数約1,500名の本会はB群15万円となる予定である。会費改定案について、議場に意見が求められたところ、以下の討議がなされた。

- ・新基準のB群は、他の群に比べて値上げ幅が大きい。
- ・会費数・会費金額が変わっても学会の投票権は1票で変わらないので、得をしている面もある。
- ・本会の体力的に厳しいのではないか。

討議の結果、B群の学会の体力を考慮の上、値下げを検討いただくよう回答することとなった。

また、三浦(英)理事より、看保連臨時社員総会日に都合がつかない旨が報告されたところ、出席可能な方がいれば予定することとして、次期体制への申し送り事項となった。

第5号議案 平成30年度予算(案)の件

吉田理事長より、平成30年度予算(案)が示され、各委員会委員長より説明がなされた。

1)学術委員会

岡田学術委員長より、各予算科目について説明がなされた。

議場より、教育セミナー(東京)の会場について質問があり、委員交代があるため開催日程及び会場は決定していないが、候補会場の費用を概算計上していることが回答された。

議場より、委員交代後に、新委員で東京セミナーを開催することは、準備する時間に余裕がないとの意見があり、現委員で各セミナーの候補会場を仮押さえしておくこと、また、東京開催に関しては新委員でも開催がすぐできるように、現委員で準備した上で、引き継ぐこととなった。

2)学会誌編集委員会

簾持学会誌編集委員長より各予算科目について説明がなされた。

- ・投稿・査読システム費用について、次年度は本年度分を含めた2年度分支払う必要がある。
- ・学会誌の在庫部数に応じて保管費用が変動する。

議場より意見があり、学会誌の在庫部数を抑制することとなった。

3) 政策・診療報酬委員会

宇都宮政策・診療報酬委員長より各予算科目について説明がなされた。

4) 広報委員会

落合広報委員長より各予算科目について説明がなされた。

5) 倫理委員会

瀬戸倫理委員長より各予算科目について説明がなされた。

- ・審査申請があった場合の費用を計上している。申請がない場合は支出を抑えられる予定である。

6) 国内交流委員会

仲村国内交流委員長より各予算科目について説明がなされた。

- ・学術集会時に会議を開催することやメール会議の利用により、対面会議用予算を削減した。

7) 選挙管理委員会

伊藤選挙管理委員長より各予算科目について説明がなされた。

8) 総務委員会

池亀総務委員長より各予算科目について説明がなされた。

- ・会費収入について、全会員の81%が納入することを見込み予算計上した。
- ・平成31年度定時社員総会は学術集会と別日に開催する必要があるため、平成31年度予算では理事会会議費用の予算を1回分追加計上することを次年度に申し送る。

以上の説明の後、議場に平成30年度予算の承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

第6号議案 GCNLFメンバーシップについて

岡田学術委員長より、資料をもとに、The Global Cardiovascular Nurse Leadership Forum についての説明があり、加盟団体との交流や情報交換によるメリットが説明された後、本会が加盟することが提案されたところ、議場にて以下の討議がなされた。

- ・他の加盟団体について質問があり、加盟団体について説明がなされた。
- ・英語でディスカッションできる人材が複数名必要であるが、現在、そのような人材は学会には少数である。ただし学会として人材を育成するという意味では意義がある、との意見がなされた。
- ・GCNLF がどのようなテーマで活動しているかの情報収集が必要である、との意見がなされた。

討議の結果、まずはオブザーバーとして参加し、情報収集した後、学会として加盟するメリットがあるかを再検討した上で、加盟について判断することとなった。

第7号議案 名誉会員選出内規について

池亀総務委員長より、名誉会員選出内規(案)が示され、説明がなされた後、議場に意見が求められたところ、以下の討議がなされた。

- ・名誉会員になると、代議員は継続できなくなることが確認された。

- ・名誉会員の条件は、内規(案)で提示されている複数の条件の「いずれかに該当する者」に修正することとする。
- ・「名誉会員及び特別会員の称号は終身とする。」との規定は、内規として記載することとする。

討議の後、議場にその承認が求められたところ、内容については異議なく承認された。ただし、文言を整理することとして、次回再確認することとなった。

第 8 号議案 名誉会員の推薦について

吉田理事長より、名誉会員候補者として、佐藤芙佐子会員(鈴鹿医療科学大学)、豊田百合子会員(大阪保健福祉専門学校)、井部俊子会員(株式会社井部看護管理研究所)、深谷智恵子会員(亀田医療大学)の4名が示され、議場にて討議がなされたところ、現在代議員を務められている豊田会員と井部会員については代議員任期満了後に名誉会員に推薦するよう連絡することとし、今回は、佐藤会員と深谷会員を名誉会員に推薦することとして、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。就任諾否を本人に確認することとする。

第 9 号議案 学術委員会委員の交代について

岡田学術委員長より、阿部隼人委員(北里大学)より委員辞退の連絡があったため、交代として濱上亜希子会員(兵庫県立大学)が推薦され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

第 10 号議案 日本循環器心身医学会ジョイントシンポジウムの件

仲村国内交流委員長より、標記事項に関して国内交流委員会で審議され、ジョイントシンポジウム開催可と判定したことが報告された。その座長の推薦について、議場に意見が求められたところ、眞茅監事より推薦することとなった。

第 11 号議案 脾臓移植の保険収載に関する要望書の提出について

仲村国内交流委員長より、臓器移植関連学会協議会から標記の要望があったことが説明され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

第 12 号議案 査読委員について

眞茅監事より、査読委員の質を上げることが提案され、議場にて以下の意見開陳がなされた。

- ・査読回数を増やし、査読の質を上げることが投稿者のためとなり、全体の質を上げることにも繋がる。
- ・査読内容を厳しくし、査読回数を増やすことで投稿数が減ってしまう恐れがある。
- ・統計に関する論文については統計専門家に見てもらう必要があり、外部に依頼することも検討してはどうか。
- ・他学会の学会誌では、学会誌内で論文の質に差が出ている。

討議の結果、統計に強い委員を理事から推薦することとし、学会誌編集委員会にて査読委員について検討することとなった。

(報告事項)

1. 論文表彰、第 15 回学術集会優秀演題賞審査委員について

擁持学会誌編集委員長より、資料をもとに、論文表彰委員選定について報告がなされた。本年度は対象論文が少ないため、共著者が非会員であっても対象論文に含めていることが報告された。

また、資料をもとに、第 15 回日本循環器看護学会学術集会優秀演題賞審査委員選定について報告がなされた。

2. 循環器看護の定義及びステイトメント作成に関わるワーキンググループの設置と運営に関する申し合わせの修正について

岡田学術委員長より、資料をもとに、標記事項について報告がなされた。

- ・WG 委員の任期を2年間と定めた。再任は妨げない。
- ・経費に関しては学会の規則に準ずることと定めた。

3. 教育セミナー実施報告（大阪及び東京）

岡田学術委員長より、資料をもとに、大阪セミナー及び東京セミナーの受講者アンケート結果について、報告がなされた。

4. 第 14 回学術集会報告

田村第 14 回学術集会長より、資料をもとに、標記事項について、以下の説明がなされた。

- ・開催日程:2017 年 9 月 9 日(土)~10 日(日)
- ・参加者数 会員:402 名 非会員:597 名 学生:4 名 計 1,003 名
- ・1,000 名以上の徳島県での宿泊者数が認められ、徳島県コンベンションから 180 万円の助成金が支給された。

5. 第 15 回学術集会準備状況報告

簗持第 15 回学術集会長より、資料をもとに、標記事項について以下の説明がなされた。

- ・開催日程:2018 年 10 月 27 日(土)~28 日(日)
- ・会場:大阪国際交流センター(大阪市天王寺上本町 8-2-6)
- ・演題登録数は 110 演題(交流集会 2 演題、委員会企画 2 演題、指定共同企画 3 演題含む)(5 月 23 日時点)

6. 第 16 回学術集会準備状況報告

眞茅第 16 回学術集会長より、資料をもとに、標記報告事項について、以下の説明がなされた。

- ・開催日程:2019 年 11 月 2 日(土)~3 日(日)
- ・会場:北里大学白金キャンパス・北里大学プラチナタワー／アリーナ(予定)
- ・運営会社:株式会社サンプラネット メディカルコンベンション事業部
- ・特記事項:参加者への宿泊ホテルの斡旋は実施しない。

従来の懇親会に替わる、参加者の交流を目的としたプログラムを検討中である。

7. 第 17 回学術集会について

吉田理事長より、2020 年の第 17 回学術集会開催について、東京以外での開催とすることが提案されたところ、議場より意義は出なかった。会長及び開催地については今後検討することとする。

8. 次回の理事会予定について

2018 年度第 1 回理事会(旧体制)、定時社員総会(旧体制)、第 1 回理事会(新体制)を、10 月 26 日(金)に新大

阪丸ビル別館にて開催する。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。